

1. 日時 平成18年 5月11日(木) 5校時
2. 学級 1年3組 男子21名 女子15名 合計36名 北校舎4階 第一美術室
3. 主題 描画の基本「ピーマンを描く」

#### 4. 主題について

中学生のこの時期になると、知的な発達著しく、科学的な見方や論理的な考え方が発達してくる傾向にある。したがって、ものの見方やとらえ方も客観的な観察力がすどくなってくる。しかし、その反面、既成概念で対象をみる見方もあるため、自分の思いのなかで表現したいことが、現実的に思うように表現できないという抵抗感をもっている生徒が多い傾向にもある。表現したいという思いがあっても、それらを具体的に表現する技能が伴わなくては、結果として主題の意図からかけ離れ、学習への満足感や表現への充実感が味わえないままに終わることになる。そこで、このような表現への抵抗感を取り除き、対象から素直に感動したことを意欲的に表現するためには、新鮮な感覚で対象をとらえる観察力を鍛えることができる題材が適切であると考え。このようなことから、平素の生活などで身近に存在し、日常的によく見かける学習材としてピーマンを対象とした描画指導を、1学年の初段階の学習内容に位置づけ、その後の学習の基礎となるように位置づけた。

この題材での指導のねらいは、絵画領域における基礎的能力として、自然や身近なものを観察して形や色彩の美しさなどを感じ取る力、それらを表現するために適切に材料や道具を生かす基礎的技能を身につけさせるものである。具体的な方法としては、身近によく見るピーマンから、形の特徴や色彩の変化などの観察を通して自分の表現意図を深め、その意図にあった表現はどのようにしたらよいかを考えさせ、自分なりに試行錯誤を繰り返させる中で身につけさせたいと考えている。さらに、相互の表現がさらに深まるように、グループ内での相互鑑賞を大切に、他者とのかわりの中からもそれぞれのよさを感じ取らせ、個々の学習に高まりがもてるように指導していきたい。

#### 5. 指導と評価の計画(別紙)

#### 6. 本時の達成目標

関心・意欲・態度	対象を観察し、形や色の美しさやそのよさを味わい発表することができる。
発想や構想の能力	対象を新鮮な感覚で観察し、形や色の特徴から表したい感じを決め発表することができる。
創造的な技能	表現意図に応じた彩色ができるように水彩絵の具の使い方やかし方など、基礎的・基本的技能を身につけることができる。
鑑賞の能力	鑑賞活動を通して、作品のよさや違い、工夫している点について、自分のことばで発表することができる。

#### 7. 本時の指導の構想

##### (1) 指導構想及び留意点

本時の授業は、「描画の基本」(ピーマンを描く)6時間の4時間目にあたる。前時までの3時間は、観察の視点を具体的に示し、形としての全体と部分のとらえ方や立体感などの表し方を、鉛筆による精密描写により指導をした。本時では、前時までの学習を振り返らせ、確認した個々の表現意図をもとに、透明画法による水彩絵の具の使用方法や生かし方などの基礎的指導を通して、自分の感性を大切にしたい色による表現の仕方を工夫させることをねらいとする。

##### (2) かわりあいを生かすてだてについて

自分の表現意図にあったピーマンを描くために、試行錯誤の中で発見したり感じたことと、友達等の作品の「よさ」に気づかせながら、自分の表現意図に迫るための水彩絵の具の使い方、混色の仕方などの具体的な方法を選択させ、制作を進めさせたい。また、制作途中で相互に表現の違いやよさ観察する中で、さらなる表現意欲がたかまるよう、自分の意見や友達のアドバイスを交流させたい。

8. 展開案

個に配慮する視点<A>達成度 <B>学習速度 <C>取り組み方  
<D>見方・考え方 <E>興味・関心 <F>生活経験

段階	過程	時間	学習内容	評価の視点・方法	指導上の留意点	資料・教具
導入	課題把握	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の準備ができている・</li> <li>・元気な挨拶ができる。</li> <li>1. 前時までの学習を想起できる。</li> <li>2. 本時の学習課題を確認できる。</li> </ul> <p>ピーマンらしく彩色するにはどのようにすればよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 水彩道具の説明自分なりに観察したピーマンから美しさを感じることができる。(机間指導)</li> <li>2. 本時の学習課題を発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の準備と確認(補充) 机上の配置、水彩道具、ピーマンとその精密描写</li> <li>・正しい姿勢と声の大きさ</li> <li>1. 自分の表現意図を確認させる。 E</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道しるべ</li> <li>・学習シート</li> <li>・クロッキー帳(精密描写)</li> <li>・水彩道具</li> <li>・紙版書</li> </ul>
展開	課題追求	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 「ピーマンらしく」とんなピーマンだろうか、また、自分はどんなピーマンに仕上げたいか発表できる。</li> <li>4. 彩色のための鉛筆による下描きは、どのような下描きがよいか発表できる。</li> <li>5. 下絵の技法を理解し、ピーマンの下描きすることができる。</li> <li>6. 色の作り方、筆の動かし方、筆に含む水の量、混色について理解し、自分の制作にいかすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 課題解決にむけて積極的に表現活動に取り組むことができる。</li> <li>4. 彩色に適する下描きを選択しその理由を説明できる。</li> </ul> <p>5. 6 作品内容 表現意図に迫る彩色の工夫を理解し、透明画法により作品を制作することができる。</p> <p>A: 表現意図をもとに、色づくりやタッチ(筆触)に自分なりの工夫を加えながら透明画法で彩色をすることができる。 C: 彩色に必要な道具や用具の扱い方をはじめ、透明画法で彩色できるよう、絵の具と水の混ぜ方や筆づかいの方法を具体例で示し、実際に描けるように個別に指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. ピーマン特有のつや、凹凸、やわらかさ等の質感は、鉛筆の場合どのように表現できたか想起させる。</li> <li>D</li> <li>4. 複数の提示された下描きを注目させその違いを指摘さる。 D</li> <li>6. 彩色の初段階では、暗い部分から行わせる。 C</li> <li>・適切な水量の調節、筆の選択を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーマンの下描き参考例</li> <li>・鉛筆</li> <li>・試し描き用の用紙(色作り用)</li> </ul>
終末	まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 本時の学習を振り返り、課題解決に向けて工夫した点や課題を道しるべに記述し、発表することができる。</li> <li>8. 次時の課題を明らかにすることができる。</li> <li>・後始末がきちんとできる。</li> <li>・元気よく挨拶することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 本時の学習で学んだことを自分のことばで成果と課題としてまとめることができる。</li> <li>8. 自分の作品は、次はどのようなことを注意し制作していくことが大切か理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 表現意図に迫るためには、どのような工夫が必要か、記述でまとめさせる。(A)</li> <li>・何人かに発表させる。</li> <li>8. 次時の学習課題と内容の確認をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道しるべ</li> <li>・実物投影機</li> </ul>

指導と評価の計画

1年 美術		単元(題材)名	描画の基本「ピーマンを描く」	総時間 6時間		
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。</p> <p>ア 自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチをすること。</p> <p>イ 対象を見つめ感じ取ったよさや美しさ、想像したことなどを基に主題を発想し、全体と部分との関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>ウ 描画における形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けること。</p> <p>エ 自分の表したい感じを大切に多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション、彫刻などに美しく生き生きと表現すること。</p> <p>鑑賞の活動を通して、次のことができるよう指導する。</p> <p>ア 想像力を働かせ、美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。</p>						
単元の目標	主な学習活動	評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を見つめ感じ取ったこと基に主題を発想し、全体と部分との関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</li> <li>描画における形や色彩の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けること。</li> <li>生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。</li> </ul>	<p>対象を観察し、形や色などの特徴をつかむ。</p> <p>観察をもとに、感じ取ったことから表現意図を決定する。</p> <p>表現意図をもとに、対象を鉛筆で描写する。</p> <p>表現意図をもとに、対象を透明画法で描く。</p> <p>完成した相互の作品のよさや工夫した点を鑑賞する。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を観察し、形や色の美しさやそのよさを味わい発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象を新鮮な感覚で観察し、形や色の特徴、そのよさや美しさを感じ取る中から表したい感じを決め、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>描画の基礎的、基本的スキルを身につけ、表現意図に応じた彩色ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞活動を通して、作品のよさや表現の工夫を感じ取り、発表することができる。</li> </ul>
		<p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の形や色の美しさについて、感性を働かせ感じ取り、その特徴や美しさを自ら進んで発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形の特徴や色の美しさに加え、観察の中から感じ取った印象を大切にしながら表現意図を決定することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現意図をもとに、色づくりやタッチ(筆触)に工夫をし、質感や立体感を表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で作者の思いや意図、表現の工夫を感じ取り、発表することができる。</li> </ul>
		<p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピーマンの特徴をあげることができるよう、観察の視点や方法を個別に指導し、気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな感じに表現したいのかを具体的に言葉にできるよう、形の特徴や色の美しさについて個別に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>描画に必要な道具や用具の扱い方をはじめ、透明画法で彩色できるよう、混色や筆の使い方を、実際に描けるように個別に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な作品例でよい点、工夫している点を具体的に示すことによって自分なりの意見や感想を発表できるように指導する。</li> </ul>

次	時	主な達成目標	主な学習活動	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	0.5	対象をみつめ感じ取ったことをもとに主題を発想することができる。	対象をよく観察し、形や色などの特徴をつかむ。	鉛筆や水彩絵の具等による多様な表現とその方法を理解し、表現への意欲をもつことができる。			
2	0.5	対象から、固有の特徴や美しさを感じ取り生き生きとした表現のための構想を練る。	観察をもとに、感じ取ったことから表現意図を決定することができる。		対象を新鮮な感覚で観察し、その形の特徴や色合いなどを感じ取る中で、表現したい感じを決めることができる。		
3	2	対象の見方やとらえ方を深め、鉛筆による形や陰影の特徴をとらえて表現する。	表現意図をもとに、対象を鉛筆で描写をする。			表現意図をもとに表したい「ピーマンらしさ」が伝わるように、精密描写をすることができる。	
4	2 本時 1/2	対象の見方やとらえ方を深め、水彩絵の具の効果的な使用により、形や陰影・色の特徴をとらえて表現する。	表現意図をもとに、対象を透明画法で描く。			表現意図に迫る彩色の工夫を理解し、透明画法により作品を制作することができる。	自他の作品を比較し、良さや工夫した点をまとめることができる。
5	1	自他の作品のよさや苦心した点などを発表することができる。	完成した相互の作品のよさや工夫した点を鑑賞する。				自他の作品のよさや表現の工夫した点、表現意図について発表することができる。